

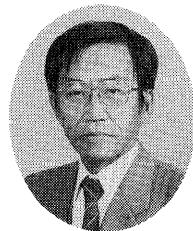
## 巻頭言



## 学 会 の 財 務 に つ い て

林

弘†



学会の財務を今年から担当しております。今月の巻頭言の場を与えられましたので、この機会に情報処理学会の運営のためのお金の現状と今後への課題を説明させていただき、皆さまのご理解を得たいと考えております。

学会活動も国、企業と同じように収入と支出から成り立っており、収入が無ければいかに立派な研究成果であろうとその成果を発表できる場が無くなってしまいます。したがって、運営に必要なお金を確保することは、学会の非常に重要な仕事となります。一般会計予算は平成4年度で収入が6億9,400万円、支出は6億8,900万円ですから500万円の剰余金ができる予定ですが、前年度の剰余金は予算レベルで1,900万円でしたので、収支決算は急速に悪化しています。最近の経済情勢あるいは事務所移転による経費増等を考慮すると、5年度の予算編成は大変厳しい状況です。

現在の学会活動の主たるものは学会誌発行、論文誌発行、調査・研究会活動、春秋の全国大会、各種シンポジウム、ワークショップ、関連の国際会議等です。ところが、学会誌発行についていえば年間6,500万円の赤字、論文誌発行、調査・研究会活動がそれぞれ年間2,400万円、1,900万円の赤字です。全国大会及び国際会議関係も事務局経費を考慮すれば赤字ですので、殆どの学会活動は赤字という惨憺たる状況です。これを補填するために出版、セミナ等の事業活動を行い収入増に努めていますが、現状では学会活動による赤字の殆どは学会収入の48%を占める会費収入でまかなければなりません。

別の視点から学会を考えてみると、学会の会員数は32,000人にも達しますが、研究会、全国大会等の学会活動に参加している会員は高々5,000人程度にすぎません。つまり80%以上の

学会誌購読を中心とした会員によって研究発表、論文発表のような主たる学会活動が支援されることになります。

したがって、学会の財務状態を改善するためには、会員増の運動を進めるには、会員外のかたの学会活動への理解が重要なポイントとなってきます。また、会員との接点は現在学会誌だけですが、教育あるいは新しい研究分野の紹介等によって学会と会員の接点を増やすことも必要と思われます。

また、学会は営利団体ではなく同好の士の集まりです。このような団体では個人の活動が運営の母体となります。研究会、全国大会への発表、論文発表を積極的に行う雰囲気を会員のなかに醸成し、さらに会員自身が積極的に学会活動へ参加する意義を認めることができれば学会のレベル向上ひいては学会の財務改善に役立つと思われます。

一方、学会の財務の健全化を図るために、現時点では明確に決まっていない学会活動に対する財務指針を明確にする必要があります。具体的には学会誌、論文誌、調査・研究会への補助比率をどう設定するか、学会財務状況がどのような場合会費値上げを考慮するか等について。

また、財務内容を改善するために、各活動の独立採算制の導入も考えられます。特に調査・研究会はその活動の性格あるいは実績から充分に可能です。独立採算制を導入すると各委員のかたの負担がまた増える可能性もありますが、学会活動のメリットを享受できる方策があれば独立採算性の導入は有力な案と考えられます。

現在学会の理事会においても学会活動の活性化を目指して、部会制、新分野の開拓、リストラ等の検討を進めています。学会財務はこれらと密接に関連しております。会員の皆さまのご意見をぜひともお待ちしております。

(平成5年1月7日)